

不登校についての体験談（保護者 1）

不登校の時期：小6～中3

不登校の期間： 3年半

不登校になったきっかけを教えてください。

これといったきっかけは未だにわかりません。もともと行き渋りの時期もありましたが、小6の担任の先生とうまくいかず全く学校に行けなくなりました。

学校に行かないときは、子供はどのように過ごしていましたか。

最初は習い事や友達と遊んでいましたが、やがて部屋に引きこもってゲームを1日中するようになり、昼夜逆転の生活をするようになりました。

その時の気持ちや考えていたことを教えてください。

このまま、一生引きこもってしまうのか？終わりはくるのだろうか？いったいいつが終わりなのだろうか？勉強が遅れたら取り戻せるのだろうか？この子はどうなってしまうのだろうか・・・など本人が苦しんでいることに寄り添うことより、将来の心配ばかりしていました。

子供に対し、どのように関わったり、声掛けをしたりしていたかを教えてください。

子供の本当の心の声を聞いてからは、子供がやりたいことをできる限りやらせていました。

全く世間から遠ざけるのではなく、今学校ではこんなことをしていると、こんなのがあるけどやってみないか？など情報は伝えました。ただ、不安が怒りに代わってしまう時などはただただ見守っていました。

学校に行かなくなった当初から今に至るまで、子供や保護者の変化として感じたことを教えてください。

学校に行かないということは、とにかく全てのリズムが狂ってきます。親子の関係、家族の関係、ママ友との関係。でも、それは親の問題。学校に行けなくなった子供はもっともっとしんどい思いをしています。そのことに気が付くまで時間はもちろんかかりました。ぶつかり合って泣いて叫んで、でもそこまでして初めて子供が苦しんでいることに親は気が付けました。試行錯誤をしながら、時には親の会でアドバイスを聞く、行政に頼ってみる、本を読む。いろいろな方法で学びました。親が変化すると子供も変化します。会話ができるようになってきます。会話ができるとうちが進展があります。一喜一憂することもあります。焦らずじっと子供から動くのを待っていれば必ず子供は動きます。時期に答えはありません。いつになるかはわかりません。親は子供のために学んでください。子供が動きたいときに良い方向に動けるように情報を集めてください。寄り添ってくれる人はたくさんいます。

子供にしてよかったこと、やらなければよかったことを教えてください。

学校の情報を一番しんどかったであろう時期に子供にいちいち伝えたこと。今日は体育祭だったなど言ったことはやらなければよかったと思う。

してよかったことは、子供が〇〇したいと、要求することはできる限りやってあげたこと。要求を呑むとエスカレートするのではないかという不安もあったが、子供は親をちゃんと見ていると思います。子供が親を試したときにちゃんと答えてあげれば子供も学習します。

不安を感じたとき、どのようなことをしていたか、教えてください。

子供のことは親の会などで自分も子供も否定をしないで話を聞いてくれる人に相談をしました。

友達とは全く違う話をしたり美味しいものを食べに行ったりとにかくストレスを発散しました。父親とも楽しい話をして家では不安は見せないようにしていました。不安な時こそ笑って過ごせる環境を作りました。

学校に行かなかったことについて、今感じていることや考えていることを教えてください。

学校に行かなかったからこそ、今の自分があるとよく聞きますが、私はそうは思いません。普通に過ごせる事に越したことはないと思っています。しかしながら、親としてもう一度子供を見つめなおし、もう一度子育てをしなおし、ちょっとした事に喜びを感じ、ちょっとした事に幸せを感じられるようになりました。子供が生きて、楽しく生きていてくれればそれだけでいい。

学校に行っていない人や行かない人に対してのメッセージをお願いします。

学校にいけないことを「どうして」「なんで」責められるように質問されても、自分自身が一番教えてもらいたい言葉だと思います。「どうして」「なんで」と聞かない大人もいます。学ぶ場所は学校だけではないです。勉強は学びなおしが出来ます。自分で動ける時が来てから大丈夫。ただ、「学校」も敵ではないのです。ちゃんと不登校の子供の事も考えてくれています。学びの権利はあるので、親と連携をとってもらって上手に「学校」と付き合っていければベストだと思います。